



荏原製作所

海外便り

韓国の経済を支える華城（ファソン）市

■はじめに

アンニョンハセヨ！韓国西北部、ソウルの南に位置する、京畿道華城市（ファソン：Hwaseong）と聞いて、ピンとくる人はどれくらいいるでしょうか。当社からの海外便り韓国編では、これまでに2月号でソウル、5月号で釜山（プサン）と、韓国でも有名な観光地を紹介してきましたが、今回は観光地ではなく、SEAJ 会員の皆さんに向け、あえてこの地を選びました。華城市は、きっと多くの会員の皆さんが出張で訪れたり、赴任したりする土地だと思います。これから訪れる方もいるでしょう。決して観光資源が豊富とは言えない華城市を取り上げて、一体どれほどの興味を持って読んで頂けるか、一抹の不安を抱えながらも、多少は有益な情報をシェアできたらと思います。

■歴史

調べてみると、華城市の歴史は、人類のそれよりもずっと古く、恐竜時代に遡り、韓国では古生物学の聖地と目されているようです。それはこの地で「恐竜の卵の化石の集団産出」と「新種の恐竜の骨格化石の発見」という二つの歴史的な発見がなされたことに由来します。発見された恐竜に付けられた名は、なんと「コリアケラトプス・ファソン」エンシス（図1）。実際、華城市のいわゆる「ゆるキャラ」は、この恐竜をモチーフとした「コリオ」で、華城市内を走る町バスはこのキャラでラッピングされています。人類



図1 コリアケラトプス・ファソンエンシス

史まで時代を下ると、李氏朝鮮王朝時代に当時の国王正祖がその父の墓をこの地に移したことが始まりとのこと。元々華城郡だったこの地が、ソウル首都圏の拡大や国家的な産業育成政策により工場や研究施設の誘致が本格化したことで、人口が急激に増加して、華城市へと昇格したのはかなり最近のことで2001年だそうです。

■経済

華城市は、先に述べた工場や研究施設の誘致によって、現在の韓国において、最も力強い経済成長を遂げている都市となっており、韓国全土の基礎自治体の中でも第1位の経済規模を記録し続けています。それを牽引しているのが、韓国における二大産業といえる、半導体と自動車です。「K-半導体ベルト」や「未来型モビリティ」の核心拠点としての役割を担っていて、現代自動車や起亜自動車の拠点があるほか、ご存じの通り、三星電子が同社の中核事業所の一つである「華城キャンパス（ナノシティ）」（図2）を構えています。言うまでもなくここは、世界最先端の DRAM などのメモリ半導体や、ファウンドリ（半導体受託製造）の次世代技術を研究開発・量産する、グローバルな半導体産業の心臓部を担っています。読者の皆さんの中にも、ここを訪れた経験のある人は少なくないでしょう。



図2 三星電子華城キャンパス

（出典：<https://www.mk.co.kr/jp/economy/11155145>）

■暮らし

華城市は比較的最近、発展してきた都市であり、そのため交通網はよく整備されています。まず市内には縦横にバ

ス網が張り巡らされているため、市内の移動であればタクシーは不要。電動のレンタル自転車も、市内の至る所で借りることができます。また空港からのアクセスは、世界有数のハブ空港である仁川空港からも、国内線中心ではあるものの羽田からの直行便も多くソウルへのアクセスも良い金浦空港からも、直行の高速バスが毎日何本も運行されています。またソウル東部と釜山を繋ぐ高速鉄道 SRT が、華城市内の東灘（ドンタン）駅に停車するので、広く南北に韓国内を移動するにも非常に便利です。この SRT は、三星電子最大の半導体量産拠点である平沢（ピョンテク）キャンパスから程近い平沢芝制（ピョンテクチジェ）駅にも停車します。

更に直近のハイライトは、今年中には GTX という列車がソウル駅と東灘駅を結ぶことになることでしょうか。この路線が完全開通すれば（2026年6月時点で一部路線が開通済み）、有名な商業都市である江南（カンナム）にも乗り換えなしでアクセスできるようになりますし、仁川・金浦両空港への電車でのアクセスも飛躍的に便利になります。ちょっとした難点は、タクシーは不要と書いたものの、否むしろタクシーが不要だからか、タクシーを呼んでもなかなか捕まらないことでしょうか。韓国内では、Kakao や Uber と言ったタクシー配車に便利なアプリが使えますが、華城市ではアプリで呼んでもなかなか来ません。従って、私は普段、タクシーを使わないことを前提として移動を計画しています。

次に飲食について。華城市に限らず、韓国内ではカフェには事欠きません。米シアトル発の某巨大コーヒーチェーンも街中には数えきれないほどあって、大抵どの店舗も上々の客入りです。カフェインが摂れれば味には拘らない人には安価なチェーン店、バリスタの淹れる拘りのコーヒーで

ゆったりした時間を過ごしたい人には個人経営のちょっとお高いカフェと、幅広いニーズに応じたカフェが、華城市でも簡単に見つかります。食事については、中心地である東灘周辺には名物と言える料理はないのですが、東西に長い華城市では、西側が干潟の広がる海に面しており、そちらに行くと、美味しい貝料理が頂けます。マッチゲと呼ばれるマテ貝の辛い鍋や、貝焼き（チョゲグイ）がオススメです。因みにこれは華城市の名物というわけではありませんが、私は貝蒸し（チョゲチム）、中でも特に牡蠣をふんだんに使った牡蠣蒸し（グルチムもしくはソクファチム、図3）が大好きです。写真の鍋は二層構造になっていて、下の段にはアサリなど貝で取ったスープが入っており、最初は蓋をして、このスープから立つ蒸気で上段に置いた牡蠣や帆立を蒸して頂きます。上段を食べ終わったら、下段にはカルグクス（韓国風うどん）を入れて、貝の出汁が効いたスープで締めくくります。華城市に限らず、韓国にいらっしゃる機会があれば、是非「チョゲチム・ソクファチム」で検索して召し上がってみてください。閑話休題、華城市に話を戻して、美味しいチョゲグイについては、「観光」の項目で触れたいと思います。

ショッピングがお好きな方は、折角韓国に来たなら、ソウルに多くあるデパートに行かれると思いますが、実はここ華城市にもロッテデパートがあります。上に述べた東灘駅に直結しています。2021年8月にオープンし、ロッテデパートグループの中では最新の店舗となります。「ステイプレックス」というコンセプトのデパートらしく、単に買い物をするのみならず、訪れる客が、ここで過ごすこと自体を楽しめるよう、通常イメージされるようなデパートと違って、外観はモダン（図4）、内部は空間を非常に贅沢に使った余



図3 ソクファチム（牡蠣蒸し）



図4 ロッテデパート東灘店外観



図5 ロッテデパート内観

裕のある作りになっています（図5）。地下一階には、韓国内の有名な飲食店が軒を連ね、高頻度で店舗が入れ替わるので飽きることがありません。

■観光

華城市は観光都市ではないため、正直なところ、観光資源は乏しいです。その中で、観光するのに魅力的な場所としては、済扶島（チェブド）が有名です。韓国南端にはマリリゾートとして世界的にも有名な済州島（チェジュド）があります。普段お付き合いのある方から「チェブドに連れて行ってあげるから今から用意して」と電話があって、「今からチェジュド？飛行機で？無茶を言う人だな」と思いましたが、よく聞いたらこちらは「チェブド」でした。さてこの済扶島は、華城市の西端に位置する小さな島です。島に渡るにはケーブルカーもありますが、断然オススメなのは陸路です。まるで旧約聖書に有名なモーセの軌跡よろしく、日に二回、干潮時に、海が左右に分かれて島に行き来できる道が開きます（図6）。実際、島へ渡る車道は、満潮時には閉鎖されてしまい、タイミングを逃すと島に取り残されてしまいます。島全体がレジャー島のようにっており、海水浴場、釣り場、ウォーターパーク、レストランが小さい島内に所狭しと並んでいます。済扶島を訪れたら、是非とも、上にも紹介したチョゲグイ（図7）を召し上がって頂きたいです。勿論、日本でも貝焼きは食べられますが、韓国ならではのソースを付けて頂くと、全く違った味わいを楽しめます。日本人としては、醤油を垂らして頂きたいもなりますが。



図6 済扶島へ渡る道



図7 済扶島で頂けるチョゲグイ

■むすびに

今回は、韓国内では決して観光地とは言えない華城市を紹介させて頂きました。しかし SEAJ ジャーナルの読者の皆さんには比較的馴染みのある都市だと思いますし、ガイドブックにも殆ど載っていないので、何よりこれから華城市を訪れる方々の参考になれば幸いです。私がこちらに赴任して四年目に入りましたが、三星電子の華城キャンパスから程近い東灘地域では、この四年間で、多くの新しい道路が開通したり、新しい公園が出来たり、上に紹介した通り交通の便もどんどんアップデートされており、韓国内でトップの経済規模を誇る都市だけあって、ダイナミックな発展の途上にあることを日々感じています。また私の韓国語の先生のところには、多くの日本企業からの赴任者が韓国語を習いに来ているそうです。実際、華城市で働いている当社の赴任者は、様々な形で他社の日本人赴任者と交流しており、治安も良いので、安心して華城市を訪れて欲しいと思います。

(Ebara Precision Machinery Korea INC. ^{まつお ひさのり} 松尾 尚典)